

8月30日から9月5日は「防災週間」です

参考:「消防庁 地震防災マニュアル」(総務省消防庁) (https://www.fdma.go.jp/relocation/bousai_manual/)を加工して作成

地震防災マニュアル

地震が発生したとき、被害を最小限におさえるには、一人ひとりがあわてずに適切な行動をすることが極めて重要なため、日頃から地震の際の正しい心構えを身につけておくことが大切です。

地震が起きる前に…

備蓄品を備える

地震で普段どおりの生活が難しくなる場合もあるため、数日間生活できるだけの「備蓄品」を備えておきましょう。



● 目安:最低限3日程度の水や食料

非常持出品を準備する

地震の被害によっては避難が必要になる場合もあるため、「非常持出品」を準備しておきましょう。



● 玄関や寝室等、持ち出しやすいところに置く

身の安全の確保

まずは周囲を確認し、身の安全を確保しましょう。

- 転倒した家具や破損したガラスでケガをする恐れも
- 小さな揺れの時や、揺れが収まった後に窓や戸を開け出口を確保する



避難の判断

正しい情報に基づいた判断を!

- 災害時はデマが飛び交いがちのため、テレビ・ラジオ・役場等の情報に注意し、正しい状況を把握する
- 役場から避難指示・勧告がたら従い、無い場合でも危険と判断したら避難する



家を出る時

避難する際も周囲をよく確認しましょう。

- ガラスや看板等の落下に注意する
- 電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉める
- 自宅の安全確認後、近所にも声をかけ安否を確認



避難方法

避難時に車を使用すると混乱をきたす場合も。

- 避難する際は原則として徒歩で避難する。車を使うと渋滞となり、消防・救急活動などに支障も
- 身の周りの避難所や広域避難場所に避難する



揺れが収まったら…

今月のべからず 濡れた場所で、電気溶接するべからず
濡れた場所で電気溶接を行うと、感電する恐れがあります。



レンタルのニッケン

ホームページでも最新情報をお届けしています。是非ご覧ください。

レンタルのニッケン 検索



安全ニュースのご活用についてお願い

弊社は皆様の、安全作業に関するよりよい情報をご提供するため、安全ニュースの製作・配布に取り組んでおります。下記、ご理解いただき、ご活用いただけますようお願い致します。

- 安全ニュースの一部または全部において、個人・法人を問わず、弊社および引用先(各種団体など)の許諾を得ずに、いかなる方法においても、営利目的にて、無断で販売・複製・貸付・加工・加筆および、公衆送信(インターネットやそれに類した送信)などを利用して提供することを禁じております。
- 弊社は、本紙の内容において如何なる保証も行いません。
- 本紙内容にて発生した障害および事故についても、弊社は一切責任を負いません。

レンタルのニッケン 公式 情報発信中!



フォロー
宜しく
お願い
します!



安全ニュースで取り上げて欲しい題材やご意見ご要望などがございましたらeメールをご活用ください e-mail: nikken@rental.co.jp

UD FONT 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



レンタルのニッケン

お客様の安全作業のために。

安全ニュース

Safety news

2025年

8月号

No.284

編集・発行

株式会社レンタルのニッケン
安全部/営業支援部

お問い合わせ

TEL.03-6775-7811

特集 電気使用安全月間

- 過去4年間(2021年~2024年)における感電災害の発生状況
- ヒヤリハット・感電災害事例
- 感電による人体への影響と応急処置例
- 8月30日から9月5日は「防災週間」です

2025年
9月号の予告

全国労働
衛生週間

8月は電気使用安全月間 期間 8/1~8/31

主催:経済産業省

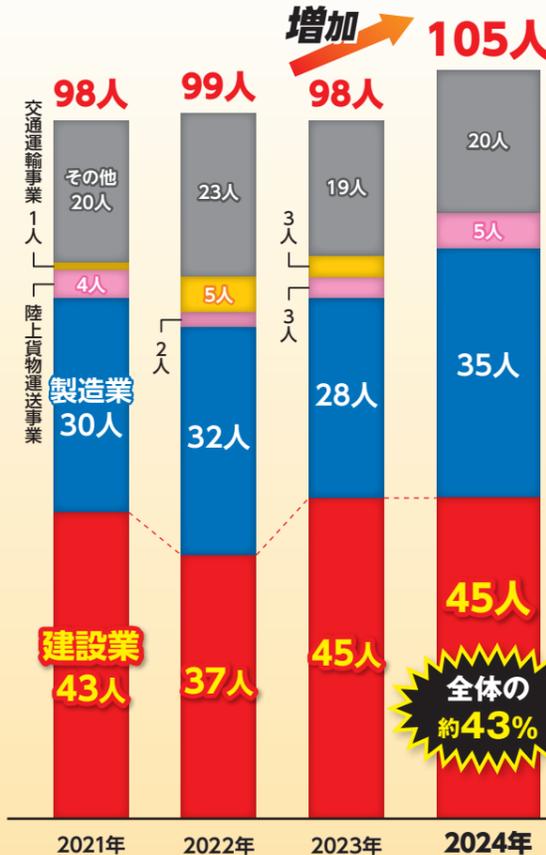
8月は感電災害が発生する危険性が高い季節といわれています。経済産業省では8月1日~8月31日の1ヵ月間を「電気使用安全月間」と定め、関係各団体による集中的な安全運動を展開しています。感電は死亡につながるため安全運動を通して、安全知識の向上や電気事故の防止に取り組みましょう。



参考:「労働災害発生状況」(厚生労働省) (<https://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzenisei11/rou sai-hassei/>)
「職場のあんぜんサイト 安全衛生キーワード 感電」(厚生労働省) (https://anzeninfo.mhlw.go.jp/yougo/yougo74_1.html)を加工して作成

過去4年間(2021年~2024年)における感電災害の発生状況

業種別 死傷 災害

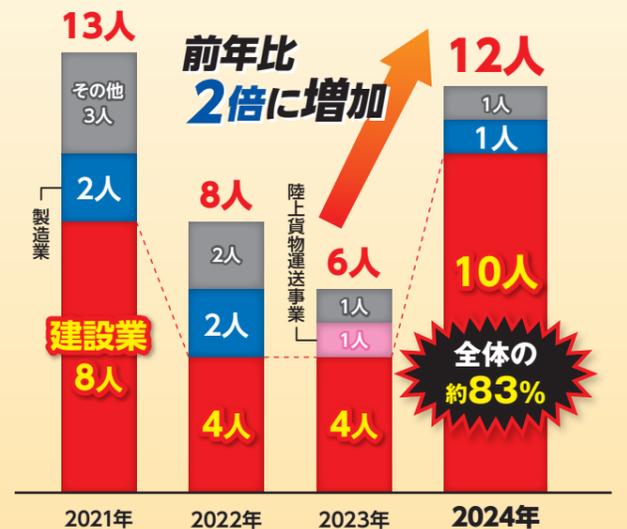


特に8月は感電事故が多発!

- 暑さから絶縁保護具等の使用を怠りがち!
- 高温多湿で注意力が散漫に!
- 軽装となり、肌の露出が多くなる!
- 汗で皮膚の電気抵抗が小さくなる!



業種別 死亡 災害



感電災害は労働災害の中でも「致死率が高い」災害となる為、しっかりとした対策を講じる必要があります。

★ ホームページにも掲載しております!是非ご覧ください。★

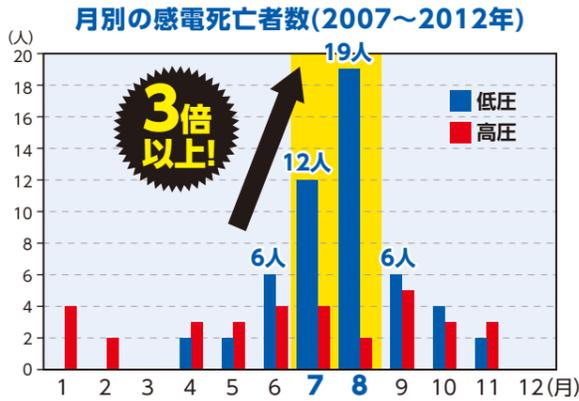
感電による人体への影響と応急処置例

夏季に多い低圧電気での感電死亡災害

身体が濡れた状態での作業は低圧電気でも死に至ることがあります。人の身体に及ぼす影響も以下のような状態により抵抗値が異なります。

素手	➡	1万～5万Ω
汗ばむと	➡	800～4000Ω
水に濡れると	➡	400～2000Ω
人体内部だと	➡	500Ω位

参考:「最近の感電死亡災害の分析」(厚生労働省) (https://www.mhlw.go.jp/content/11201000/000473273.pdf)を加工して作成



低圧電気でも「死にボルト」と言って42V以上が危険だと言われています!

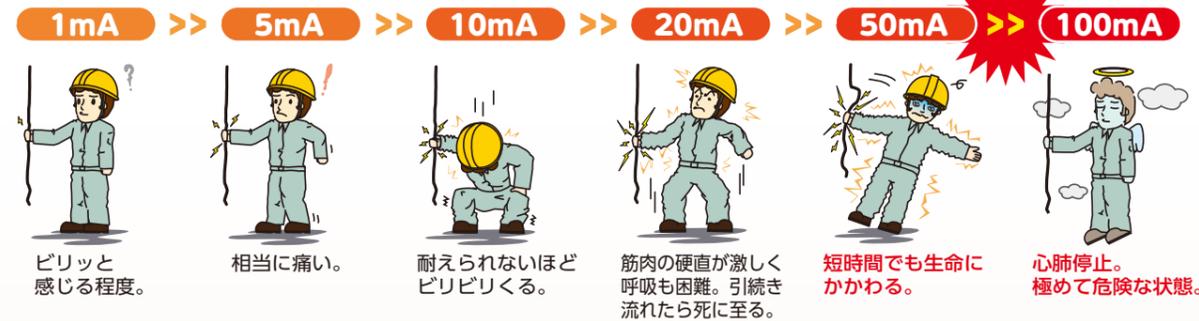
42Vで人体内部に流れる電流

$$\text{電流} = \frac{\text{電圧}}{\text{抵抗}(\Omega)} = \frac{42\text{V}}{500\Omega} = 84\text{mA}$$

電流が人体に流れた時の人間への影響

※1mAは、1/1000A(アンペア)

感電による危険度は、「電流の大きさ」「時間」「通過経路(心臓部の通過)」などによって異なります。



感電災害(電撃傷)での応急処置例

感電事故では不用意に助けに行くと、二次感電事故が発生する場合がありますので十分な注意が必要です

- 電源プラグを外すなどして、電気を遮断する**
救出者が感電を受けないように、ゴム手袋があれば使用する。感電者が感電したままの場合は、木棒などの電気を通さない物で、発電体(感電した電気コード等)を移動させる。
- 119番へ緊急連絡**
- 感電者の意識確認**
- 救急隊到着まで感電者を保温する**

意識と正常な呼吸がない
心肺蘇生法か「AED」を使用して回復を試みる。

意識がある 熱傷の程度を調べ以下の処置をする。

- すぐに冷たい水や水道水で痛みが取れるまで冷やす。
- 衣類は脱がさずそのまま冷やす。
- 水疱はつぶさず、消毒した布かきれいな布で覆い、その上から冷やす。

※熱傷範囲が広い場合、全体を冷やし続けると低体温になるおそれがあるので注意。

ヒヤリハット・感電災害事例

参考:「職場のあんぜんサイト 労働災害事例」(厚生労働省) (https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/SAL_FND.aspx) 「職場のあんぜんサイト ヒヤリハット事例」(厚生労働省) (https://anzeninfo.mhlw.go.jp/hiyari/anrdh00.html)を加工して作成

点検中、電源を切らずに作業し、アーク溶接機の端子に触れそうになった

ヒヤリハット事例

◆電気機器の点検の際は必ず元電源を切ることを周知する

配電盤の配線変え作業中、主電源スイッチの1次側に腕が触れそうになった

ヒヤリハット事例

◆配電盤の作業では元電源を切ってから作業をする

既設配管の移設作業中、脚立が仮設配線を踏み感電

感電災害事例

◆仮設配線の養生を行う
◆仮設配線の絶縁被覆や脚立の滑り止めが損傷していたら交換又は補修を行う
◆緊急時の対応マニュアルを整備する

交流アーク溶接機を使用中、電撃防止装置の主接点が開閉不能になり感電

感電災害事例

◆溶接機械の使用前点検等を確実に実施する
◆作業方法を定め、それに基づき作業を実施する
◆安全衛生教育を実施する

感電災害を防止するために

作業の適正化等

参考:「夏季における感電災害の防止について(基安発第23号)」(厚生労働省)を加工して作成

●作業の指揮者

- ・低圧電気工事については、作業グループごとに指揮者を配置し、直接指揮させる。
- ・適切な絶縁用保護具等の使用、充電回路の絶縁用防具の装着を確認させる等の作業管理を行う。

●停電作業

- ・停電作業においては、停電の状態及び遮断した電源の開閉器の状態について安全であることを確認した後に作業着手させる。
- ・停電に用いた開閉器には作業中は施錠するとともに通電禁止の表示をする等、必要な措置を講じる。

